

第12期 第6回国立市ごみ問題審議会 議事録

日 時 令和3年(2021年)4月30日(金)午後2時00分～午後3時30分
場 所 国立市役所3階 第2会議室
出席者 山谷会長、山崎副会長、内海委員、楠田委員、隈井委員、田中委員、十松委員、速水委員、山岸委員(委員は50音順)
事務局 黒澤生活環境部長、清水ごみ減量課長、豊島清掃係長、岡田清掃係主事、新清掃係主事

【議事要旨】

1. 今後のスケジュールについて

資料に基づき、事務局から今後のスケジュール(案)について説明した。

令和3年度は国立市循環型社会形成推進基本計画に基づく平成28年度～令和2年度の進捗状況の評価と第2期目標の見直しについて全7回で審議することとした。

【山谷会長】国立市循環型社会形成推進基本計画の令和2年度の総ごみ量の目標は平成25年度対比13.8%減で1人1日当たり720.4gと設定されていて、そのうちごみ量は平成25年度対比20.8%減で1人1日当たり488.9g、集団回収量を除く資源物量は1人1日当たり182.4g、集団回収量は1人1日当たり49.1gと設定されています。

これに対して令和2年度の実績を見ると、集団回収量の数値はまだ上がってきていないとのことですが、資源物量は1人1日当たり181.5gでほぼ目標を達成しているものの、ごみ量は1人1日当たり516.3gで目標に及んでいないというところになります。

この計画を策定したときは家庭ごみの有料化でもう少し減らせるという見通しを持っていたのですが、期待したところまでは至らなかったというところかと感じています。

いろいろな要因があるかとは思いますが、多摩地域だけを見てもだんだんと有料化によるごみの減量効果が緩やかになってきているという傾向が現れていて、かつては有料化と同時に容器包装プラスチックの分別収集などが行われていたのですが、最近はどこ自治体もいろいろな資源物を分別収集していて、新しい分別収集を始めることがなくなってきたということがあるかと思えます。

また、多摩地域の他の有料化をしている市では戸別収集を実施していますが、国立市では収集方法を集積場方式としたままということも少し響いているのかもしれない。

【隈井委員】令和2年度は収集量が増えて、持込量は減っているのですが、持込というのは事業系のごみになるのでしょうか。例えばテイクアウトしたもののごみや食べ残しが家庭ごみに入ってくるように、令和2年度はコロナの影響が相当出ているのではないのでしょうか。

【事務局】収集量は基本的に家庭ごみの量で、持込量はほとんど事業系ごみの量になります。コロナの影響はあるとは思いますが、令和2年度は事業者がクリーンセンター多摩川に搬入するときの手数料も引き上げていますので、どこまでが手数料の引き上げの影響で、どこまでがコロナの影響かというところまでは分析できていません。

【山谷会長】令和2年度の組成分析の結果を見ると、可燃ごみのうちの容器包装に基づく紙類とリサイクルできる紙類がそれぞれ約6%程度あり、容器包装プラスチック類が約12%ありますが、この中にきちんと分別すればリサイクルできるものがかなりあるのではないかと思います。これをどのように減らしていくのかということがこれから議論をしていただくところになるかと思います。

【楠田委員】令和2年度はコロナの影響で特に粗大ごみの持込量が多かったという記憶があつて、実績でもそうなっているのですが、令和元年度や平成30年度と比べても増えているので、これからも増えていくのではないかと思います。

令和2年度は粗大ごみの持込量が多過ぎたため、受入を制約したことで、本当はもっと粗大ごみを持ち込みたいと思っていた人がいて、潜在的な粗大ごみの量はもっと多いということは考えられるのでしょうか。

【事務局】コロナのためなるべく行くのを控えていた方はいたかもしれないのですが、持込については特段制限していなかったもので、それはあまりないのかと思います。

収集のほうは申込が多く、1日の件数を制限しているので、収集に出せなかった人がまだ家に保管していたり、持ち込みしたりということはあるかもしれません。

【山谷会長】全国的に粗大ごみが増える傾向がありますが、人口が減少している自治体でも世帯数は減っていないくて、核家族化が加速していることがあるのではないかと思います。また、高齢化に伴って亡くなる方も増えることや、断捨離など、ライフスタイルも変わってきていることがあるのではないかと感じています。

【内海委員】粗大ごみについては、例えば大きなたんすであれば地震のときに怖いので、もう少し簡易なものに換えるというように、やはりライフスタイルの変化が大きいのではないかと思います。

将来的にこの目標を達成するためには、生ごみや紙のリサイクルなど、どこかターゲットを絞ってやっていくことが必要かと思うのですが、市のほうで何かありますでしょうか。

【事務局】具体的にはまだ決めていないのですが、例えば可燃ごみの約1割が食品ロスだとすると、そこを減らせば目標に近づいていくのかとは思いますが、実際には市民への周知とか啓発が中心になるかもしれません。

紙のリサイクルについては、燃やすよりは資源化したほうがよいとは思いますが、可燃ごみが資源ごみになるということで全体的な量は変わらないので、量を減らすとすると、食品ロスの対策とか粗大ごみになるものをなるべく長く使ってもらおうということになるかと思います。

【山谷会長】紙についてはリデュースまで取り組むということですよ。私も自分で紙を買ってコピーするようになってから必ず両面印刷にしていますが、そういうインセンティブがあるとよいと思います。

【山崎副会長】やはり家庭ごみの中で、可燃ごみの中の生ごみと雑紙の減量がどこの家庭でもちょっとしたことで取り組めることなのかと思うのですが、このままではなかなか減らないと思うので、何か抜本的なことをやらないといけないと思います。

一つは以前提案したように、ごみカレンダーに何色のごみ袋を何リットル出したかを記録できるようにして、ごみを減らそうと努力した方にはごみ袋を無料で差し上げるとか、あとはいろいろな自治体でも取り組んではいますが、何かVTRを作って、お菓子の紙袋とか紙の箱は雑紙として回収すればもう一度資源として使えるということを訴えていくとか、何かアクションを起こさないと、このままでは減らないかと思います。

もう一つは生ごみについて、ミニ・キエーロはぜひ推進してもらいたいのですが、やはり限界があると思います。集めてきた生ごみを大型コンポストでリサイクルしている自治体があると聞いたことがあるのですが、そのようなことに取り組むという可能性はあるのでしょうか。

【事務局】個人的な考えになってしまうかもしれませんが、最近、八王子市で生ごみのリサイクル施設が稼働し始めたので、生ごみを分別収集して、そこに持っていくということはできなくはないかと思えます。大型コンポストでのリサイクルは周りへの影響もあるので、難しいかとは思っています。

【山谷会長】問題はコストがかかるということと市民の協力ということですが、案外と協力していただけた家庭はあるようです。狭山市などは随分前からやっていますし、多摩地域でも小平市とか、最近では国分寺市とか西東京市でもやっていて、小平市では1, 200世帯までいっています。都市化したところでは、行政が堆肥化するのには臭気の問題で不可能だろうと思えます。

【速水委員】生ごみを分別収集するとなると、ビニール袋に入れて出すのでしょうか。カラスに荒らされてしまいそうですが。

【山谷会長】自治体が蓋つきの抗菌バケツを貸して収集しているケースが多いです。韓国は全国でやっていて、ビニール袋で収集しているところもあったのですが、今はバケツに切り替わっています。

【十松委員】資源物の収集量が微増しているということは、分別が多少なりとも意識的に行われているのではないかと思いました。そして、可燃ごみや不燃ごみが少しずつ増えている原因は、家庭ごみの有料化を始めたときと比べて意識が少しずつ緩んできたことや、コロナの影響、高齢化していること、単身世帯が増えていることなどがあるかと思いました。

また、食品ロス実態調査報告書を読み、賞味期限や消費期限が過ぎて、そのままごみに出されているものを少しでも減らせないかと思ったのですが、例えばレジ袋NOデーのように、冷蔵庫を見てみるという日を設けてみるとよいかと思いました。地球に優しいと言うと聞こえはよいのですが、もっと危機感のある言葉、地球が死んでしまうくらいの感じでメッセージを発信してもよいかと思えます。

以前におむつの資源化という話もありましたが、おむつは非常に重さもあるので、検討なり情報入手が進んでいければよいかとも思いました。

【隈井委員】食品ロスについてですが、高齢の方を見ていると、冷蔵庫の中を確認しないで買ったり、食べる量が減っていても買う量は変えなかったりして使い切れないということが多く、ごみを出すという出口の問題より、買いすぎるという入口の問題のほうが大きいのではないかと思うので、例えば販売者と協力して、買いすぎているかという啓発をしていくことが必要なのではないかと思えます。

【内海委員】生産者や販売者としては売れるわけなので、廃棄になっても売ればよいとは考えてはいないと思うのですが、協力が得られるでしょうか。2個パックにすると安くなるという商法やカルチャーを変えていかないと難しいのではないかと思えます。

私たちがやれることは、子どもにごみを減らすにはどのようにやるのがよいかを考えてもらって、実際にやってどうだったかを夏休みの宿題で書いてもらうとか、ごみを減らすための啓発をどのようにすればよいかということになるかと思えます。

事業者が乗ってくれば、それもよいかと思えます。例えば大手の外食チェーンで、プラスチック容器を用意して、食べ残しを詰め替えて持って帰ってもいいという取り組みをしていたのですが、そういうものを行政としても推進していくことはできるかと思いました。

生ごみの分別収集については、千葉市で特別区をつくって試験的にやって、かなり成果が上がっているのを見たのですが、そういうかたちでやっていくこともできるかと思えます。

【隈井委員】企業側の姿勢も大分変わってきていると思います。SDGsという言葉が合い言葉になり、若者と子どもたちに結構浸透しているので、若い世代はそういうところは意識しているのではないかと思います。企業は若者の就職先として見てもらうために、SDGsというのは意識せざるを得ないと思います。

【田中委員】学校給食の生ごみを八王子のほうに持って行って肥料にしていたと思うのですが、今はやっていなのでしょうか。

【事務局】今は相模原のほうに持って行っていきます。

【田中委員】消費者団体連絡会でもごみ問題についていろいろ学習しているのですが、生ごみだけでなく、ごみがどういうものになるのかが市民にもう少し見えるとよいと思います。

2月に消費者団体連絡会で、地震の災害に遭った後の食品ロスについて、やはり冷蔵庫の中を月に一度全部見直せば、ある程度生ごみを出さないで済むのではないかという勉強会をやりました。

そういうことをなるべくいろいろなところで、学習会なり目に見えるかたちでできるとよいと思います。

【山岸委員】山崎副会長がおっしゃった、家庭ごみをどのくらい出しているのかという表を作って、インセンティブを与えるという案は一市民としてすごくよいと思いました。コストはそんなにかからないかと思うのですが、やろうと思うと難しい点があるのでしょうか。

【事務局】印刷するだけなので、難しいことはないかと思います。

【山岸委員】子育て世代とちょっと若めの世代で家族ぐるみで取り組んで、子どもがそれを見て、そういうふうに住んでいくという積み重ねが、未来を作っていくと思います。

国立市は小さな市であるのがすごくよいと思っていて、例えばどこかの小学校と協力して試験的にやってみて、その結果を市報に載せるだけで、口コミでも広がっていくと思います。

【事務局】皆様からすごくたくさんの意見をいただきまして、市としてまだまだできることがいろいろあると受け止めました。また今年度も足りていないところ等をやっていきたいと思っています。

出てしまったごみの処理について、もうちょっとできることはないかというところと、そもそも入り口で減らす工夫をしなければならないというところ、どちらもやっていかなければならないと思っています。

入り口で減らすところについては引き続き啓発をやっていくことになるのですが、昨年度実施したフードドライブはもう少し回数を増やして実施していくつもりです。また、出た生ごみをもうちょっと有効的に活用できないかというところは、まだこれから調査していく段階ではありますが、法律の規制等もクリアしながら検討していきたいと思っています。

【隈井委員】今回の補足資料4の食品ロスの資料は公表されるのでしょうか。

【事務局】環境省のほうでこれから公表するかと思います。

【事務局】最後に1点、まず報告なのですが、災害廃棄物の処理計画が正式にできて、ホームページで公開しました。これから市民への周知をやっていくことになるかと思っています。

もう1点、おむつのリサイクルについて情報提供なのですが、国のガイドラインで年間の国立市の紙おむつの排出量を推計すると、大人用で774トン、子供用で422トン、合計で1,196トンになりました。インターネットで調べた限りでは千葉県松戸市にリサイクルをやっている業者があるようなのですが、量や衛生面を考えると保管も難しいかと思うので、毎日のようにそこまで持っていくことを考えると、結構ハードルが高いのかと思いました。

2. その他

(1) 次回以降の日程について

第7回は令和3年5月31日（月）の14時から行うこととした。

— 了 —